

<AIPPI セミナー開催報告>

AIPPI・JAPAN米国特許セミナー【対面式】

生成AIの世界における知的財産とビジネスの問題と最近の特許訴訟に基づく戦略

1) 開催日時：2023年10月5日（木）13：30～17：00

2) 講演者：Knobbe Martens

Mauricio A. Uribe 氏（パートナー、米国特許弁護士）

Irfan A. Lateef 氏（パートナー、米国特許弁護士）

3) 内容：

<主なトピックス>

①生成AIの世界における知的財産とビジネスの問題

【講演者】Mauricio A. Uribe 氏

- ・人工知能、機械学習、ニューラルネットワーク及び生成系人工知能（ChatGPT、DALL-E）等、専門用語の解説
- ・世界は人工知能をどう見ているか
- ・生成AIのリスクを分類、ポリシーで考慮すべき要因
- ・ユーザーのインプット+OpenAIのアウトプット=コンテンツ
- ・OpenAI利用規約の概要（第3条：コンテンツ）
- ・ユーザーのOpenAIアウトプット責任について
- ・OpenAIで生成されたアウトプットに基づく、営業秘密、著作権及び特許による権利保護の可能性について
- ・米国著作権局のガイダンス
- ・生成AIを使用した著作権侵害責任について
- ・米国における著作権の執行
- ・防御手段としてのフェアユースの可能性について
- ・OpenAIで生成したコンテンツの商標権取得の可能性及び考えられる商標権侵害責任



Mauricio A. Uribe 氏

②最近の特許訴訟に基づく戦略（訴訟、ITC、IPR）

【講演者】Irfan A. Lateef 氏

- ・米国の特許訴訟における最近の動向
特許訴訟件数、審理件数、コンピューター／電気通信関連の特許訴訟件数、米国国際貿易委員会（ITC）及び最も訴訟件数が多い裁判所の統計の紹介
当事者系レビュー（IPR）請求（テクノロジー別）、請願書件数（月別）、審理開始率（請願書別、特許別、テクノロジー別）及び請願の結果について統計の紹介
- ・連邦巡回区控訴裁判所および最高裁判所による最近の判例
裁判管轄、第101条特許適格性要件、PTAB禁反言の適用、「公然使用」の抗弁及び「発明者の地位」をめぐる争いに関する判決の紹介
- ・法律の最新情報
法定実施可能要件：合衆国法典第35編第112(a)条
Amgen, Inc. 対 Sanofi 事件の解説
- ・日本企業が関与する米国の特許訴訟
日本の訴訟（年度別）統計の紹介
日本企業が原告となった場合及び被告となった場合の戦略



Irfan A. Lateef 氏

本セミナーは、企業知財部や特許事務所等において米国特許実務に携わっておられる方々にとって、非常に有意義な内容であった。

以上